

健康医療データと 私たちの生活

あなたのデータ
あなたの健康
私たちの未来

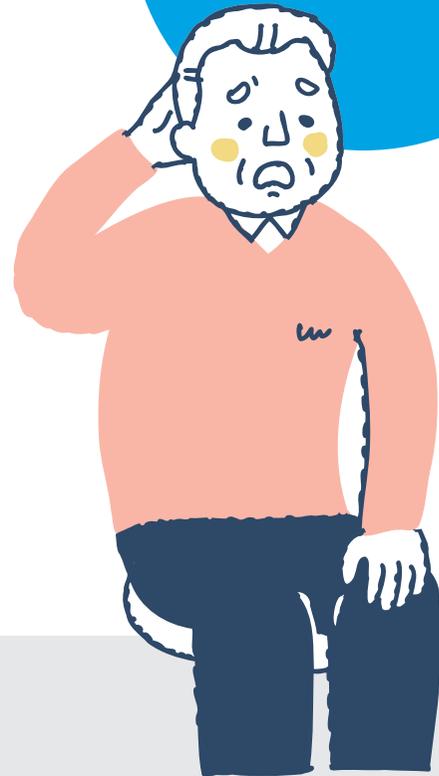


あなたの健康医療データが医療の向上に役立てられます

健康医療データとは？

健診・介護や日常的な活動で得られた健康状態に関する健康データと、病院や診療所、調剤薬局で記録された医療に関する医療データの総称です
あなたが医療機関で受けた健診や診察の記録や、スマートウォッチやスマートフォンで測定した歩数や血圧／脈拍、心電図なども健康医療データにあてはまります

健康医療データって何に使えるの？



これまであなたの健康医療データは、あなたの健康状態を把握することが主な使い道でした
デジタル化が進み、さまざまな健康医療データを集めやすくなったことで、さらなる活用が可能となったことにより、あなた一人ひとりに最適なくすりや治療法などが提供される質の高い医療の実現につながることが期待されています



健康医療データの元となる情報の一例



電子カルテ

医師が診療の経過などの医療データを、電子的に記録したものです



健康診断

健康の維持や疾患の予防・早期発見を目的とした診察及び各種の検査です



疾患レジストリ

特定の疾患、治療経過などの医療データを集積したシステムです



レセプト

医療機関が医療保険者に診療費を請求するために発行する明細書です



ウェアラブルデバイス

スマートウォッチのように手首や腕などに身に着けたまま使えるコンピュータ端末です



治験

くすりの候補の効果や副作用をヒトで確認するために行う試験です



ゲノム情報

生物の設計図となるDNAの全情報のこと。体の特徴や病気のリスクを決める遺伝情報が含まれます。

健康医療データの「いま」

健康医療データはこのように利用されます

大量のデータを分析することで、一人ひとりの体質や病気のタイプに応じた最適なくすりや治療法の選択が可能になります

研究開発に利用することで、患者さんが、より早く、新しいくすりを使えるようになります

くすりの使用に関する情報の調査により、安全な使用が可能になります

医療に関する政策を決める際に用いられることにより、健康関連サービスが向上・効率化されます



日本製薬工業協会は、健康医療データの活用を促進し、新しいくすりの研究開発や薬学、医学などの発展につなげることを目指して活動しています

日本では、健康医療データの活用が始まっていますが、課題もあります



- 健康医療データは集められる前に氏名や住所といった個人が特定される情報を削除などし、そのデータだけでは誰の情報か特定できないデータとして利用されます
- 健康医療データは事前の確認で同意された場合などに利用可能となりますが、まだ活用には課題があります
- 医療データのデジタル化はまだ発展途上ですが、電子カルテ情報の共有化など、政府の取組が進められています
- 健康医療データの活用に関する法律・ガイドラインの整備が充分ではありません

海外では、すでに環境が整えられ、活用が始まっています



アメリカ

2010年前後から政府がさまざまな法律・ガイドラインを発出することで、政府と企業が連携して医療データの活用が進み、さまざまな活用事例が生まれています

ヨーロッパ(EU)

2025年に健康医療データの活用に向けた総合的な規則が発効されました。これにより、個人が自分の健康医療データを閲覧・管理できるようにすること、より良い医療提供・研究・政策立案・イノベーションに健康医療データを活用すること、収集データ項目・利用目的・禁止事項等が明確化され、国をまたいだ健康医療データの共有化の取組が進んでいます

1 個人情報をより安全に守るために、取り組むべき課題や留意点を整理し、社会へ発信しています

2 新しいくすりをより早く患者さんへ届けるため、健康医療データの収集ならびに活用を推進し、医薬品の研究開発における効率化やより良い治療法の確立を目指しています



3 くすりの使用に関する情報を注意深く確認することで、より安全に使用できるようにするための取り組みを構築しています

4 政府や関連団体との健康医療データ活用に関する議論、提案を行い、日本国民のみならず健康医療データ活用に関する情報を発信しています

日本製薬工業協会が目指している「これから」

あなたの健康医療データがたくさんの人の健康に役立ちます

あなた

- 😊 健康を保つのに役立つ情報が手に入ります
- 😊 あなたに合った医療を受けられます
- 😊 新しいくすりや治療法などを、より早く使用できるようになります



医療機関

- + 有効な治療法が確立していない分野を明らかにすることができます
- + 診断や治療のために活用されることで一人ひとりに合ったくすりや治療法などの提供が可能になります
- + 救急時や災害時により迅速かつ的確な医療の提供が可能になります

製薬企業

- ⊖ くすりの開発を効率化することができ、くすりをより早く提供できるようになります
- ⊖ くすりの使用実績から得られるエビデンス(科学的根拠)が構築されます
- ⊖ より迅速で効率的な健康被害リスクの特定と対策が可能になります

行政

- ⊖ 健康問題に対するより適切な医療政策を立てることが可能になります
- ⊖ くすりや診療・検査などの医療行為に対して、費用に見合った効果が得られているか、限られた医療費が有効に使われているかの確認がしやすくなります



Q&A

Q1 健康医療データとは何ですか？

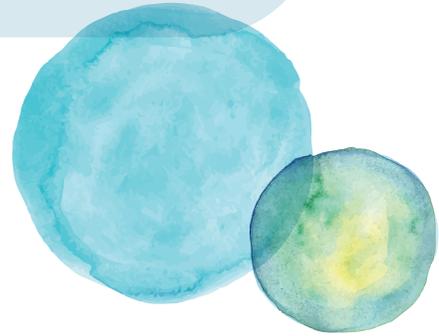
健康診断の結果、介護に関する情報、スマートウォッチのようなウェアラブルデバイスなどで取得した日常の健康状態をあらわすデータと、病院のカルテなどに記録される医療データを総称して健康医療データと呼びます。

これらの情報の多くは取得された場所で閲覧・保管されるのみでしたが、近年のデジタル化の進歩により蓄積され、様々な場所で活用されるようになってきました。同じ症状を持つ患者さんのデータが多ければ、それらのデータを分析することで、病気の特長、病気の程度や進行具合の判定に役立てることができ、客観的な判断がしやすくなります。そのため、蓄積されている健康医療データを分析し活用することで一人ひとりに最適な医療の実現につながることを期待されています。



Q3 健康医療データを活用すると、私にどのようなメリットがありますか？

あなたが複数の医療機関を受診している場合や救急医療を受けるようなとき、アレルギーやいろいろな体質について情報の共有ができるので、より正確な病気の診断や適切な治療を受けられることを期待できます。また、併用してはならない医薬品が、別々の医療機関で処方されるリスクが減ることも期待できます。その一環として、マイナンバーカードを健康保険証として利用することで、あなたの同意のもと、診療やくすりの情報の共有が進み、医療の質と安全性の向上につながります。将来的には初診時の問診票の記入の手間も軽減されるかもしれません。これらにより、これまで以上に効率的で安全な医療が受けられる可能性が高まります。



Q2 健康医療データはどのように利用されていますか？

いろいろなところで健康医療データは利用されます。

あなたのため

- 複数の医療機関・薬局をまたがるくすりの情報の共有による、より適切な医療の提供と重複する検査の回避
- 医療機関での手続きの簡略化等により利用のしやすさの向上
- 健康医療データの閲覧による日々の健康管理への活用

社会・公衆衛生のため

- 医療機関・研究機関による診断や治療の研究
- 行政機関による社会保障制度・医療政策の立案や評価
- 行政機関による医薬品・医療機器の健康被害リスクの早期発見
- 健康保険組合や民間企業の健康管理生活習慣改善プログラム・予防サービスの提供
- 製薬企業による研究開発や市販後の安全性の調査



Q4 健康医療データの利用が私以外の役に立つのでしょうか？

医学や医療は過去から現在に至るまで様々な経験や研究等をもとに進歩し続けています。健康医療データを医療関係者・大学・企業の研究者らが利活用することで、個人にあった治療が提供されるようになるだけでなく、新たな治療方法の発見、医薬品・医療機器等の開発、副作用の調査、医療コストの低下に繋がることが期待されます。

つまり、健康医療データの利用は、あなたに直接的に役立つだけでなく、あなたのご家族や身近な人たちをはじめ世界の人の健康や効率的な医療に役立ちます。



Q5

先進的な健康医療データの 利用例・取り組みはありますか？

日本を含め世界中で健康医療データを集積し、患者さんへの最適な医療の提供、医学の発展に寄与する基盤を作ろうとしています。先進的な利活用事例には次のようなものがあります。



AI(人工知能) の利用

AIを使って、糖尿病患者の日常の食事・運動・睡眠時間などのデータから診療補助を実現しています。

新薬の 開発

患者さんが希少ながんに対して、健康医療データを利用して新薬の開発が行われ、薬事承認を得ている事例があります。

政策への 利用

ある自治体では医療費適正化のため健康医療データを分析し、重症化予防の政策立案、重複・頻回受診者や生活習慣病の治療を受けていない市民へ訪問指導をしています。

Q6

私の健康医療データの利用に賛成する場合、 データを利用されるために 私がやらなければならないことはありますか？

病院や薬局が管理しているデータが利用される際は、データを利用する機関が連携してデータの共有を行いますので、あなたから申し出をしていただく必要はありません。ウェアラブルデバイスのデータの提出やアンケートへの参加が必要な際は、医療機関などを通じてご協力をお願いすることがあります。また、氏名や住所、遺伝情報など個人が特定できるデータが利用される際には、利用目的や利用されるデータについて説明された文書が提供されますので、分からない点は医療機関に説明を求めていただき、十分にご理解していただいた上で同意するかどうかご判断をお願いします。

Q7

健康医療データが 漏えいすると どのような不利益が 起こりますか？



漏えいしたデータに氏名などが含まれていた場合には、あなたの病気のことや健康状態をほかの人に知られたり、それに合わせて不審なセールスの勧誘を受けたり、差別や偏見などの被害を受ける恐れがあります。また、漏えいした事実を知ることによって精神的な被害を受けるリスクも考えられます。

しかしながら、製薬企業が健康医療データを研究開発等に活用する場合、一般的には氏名・住所・連絡先は入手しておらず、万が一の流出時の被害リスクを低減するようにしています。

氏名・住所・連絡先の情報が含まれない場合には個人を特定するのが難しいため、上記のような直接的な被害を受ける可能性はほとんどありません。

Q8

製薬企業へどのような 健康医療データが提供され、 管理されていますか？



一般的には氏名や住所などのあなたを特定できる情報が製薬企業に提供されることはありません。そのため製薬企業は、氏名や住所といった情報がなく、特定の個人を識別できない状態で健康医療データを保管しています。

製薬企業は関連法規を順守して、適切な個人情報の管理をしています。



製薬協

新薬の開発を通じて社会への貢献をめざす

日本製薬工業協会

Japan Pharmaceutical Manufacturers Association (JPMA)

製薬協は、
研究開発志向型の
製薬会社が加盟する
団体です。

製薬協ウェブサイトでは、
くすりと製薬産業について、
さまざまな情報を
提供しています。

<http://www.jpma.or.jp>

製薬協 検索

日本製薬工業協会

〒103-0023 東京都中央区日本橋本町 2-3-11 日本橋ライフサイエンスビルディング 7階
TEL: 03-3241-0326 (代表) FAX: 03-3242-1767